

スペイン第二共和政期バルセロナにおける 本の日とサン・ジョルディの日の空間史的分析

菊池 信彦（国文学研究資料館）

概要：本研究は、スペイン第二共和政期（1931-1936年）に、カタルーニャ地方の都市バルセロナにおいて同じ4月23日に開催された2つの祭、すなわち、本の日とサン・ジョルディの日を対象に、それらがどのような都市空間で催されたものかを、当時の新聞記事等の情報をもとに再現、可視化を行ったものである。この分析を通じて、スペインナショナリズム研究が前提とする国家体地域というこれまでの対立的な見方から、ナショナリズムの共（依）存という別の図式へと至る道筋を見出していくのが、本研究の目的である。

キーワード：空間史、デジタルアーカイブ、読書文化、祭典空間、ナショナリズム

Spatial Historical Analysis of the Book Day and Sant Jordi's Day in Barcelona during the Second Spanish Republic

Nobuhiko Kikuchi (National Institute of Japanese Literature)

Abstract: This study focuses on two festivals ("Day of the Book" and "Sant Jordi's Day") held on the April 23rd in Barcelona, a city in Catalonia, during the Second Spanish Republic (1931-1936). I visualized the two festivals from the viewpoint of spatial history based on newspaper articles and other information from that era. My purpose of this study is to find a way to move away from the traditional oppositional view of the nation and the region, on which previous studies of Spanish nationalism is based, to a different picture of the coexistence (interdependence) of the nationalisms.

Keywords: Spatial History, Digital Archive, Reading Culture, Festival Space, Nationalism

1. はじめに：報告の目的

スペインは言語的・文化的多様性に満ちた国である。特に、スペイン北東部に位置するカタルーニャ地方は、スペイン語（カスティーリャ語）とは異なる言語としてのアイデンティティが根強く、また、歴史的経緯からカスティーリャ、すなわち／およびスペインからの独立を求める地域ナショナリズム運動が近代以降繰り返し行われてきた。2017年には、スペインからの独立の是非を問う住民投票が実施され、それが州議会による「独立宣言」へと至ったことは記憶に新しい[1]。このため、スペイン対カタルーニャという対立構図は、スペインナショナリズム研究における前提として共有されているものである。

ところが、そのバルセロナでは、毎年4月23日に、本の日とサン・ジョルディの日という2つの祭が開催されている。本の日（Día del Libro）とは、スペインの文豪セルバンテスを顕彰し、「カスティーリャ語（スペイン語）の本の日」として1926年に設立され、スペイン第二共和政が始まった1931年からはセルバンテスが亡くなった4月23日に開催されるようになったものである[2]。一方のサン・ジョルディの日（Diada de Sant Jordi）とは、カタルーニャの守護聖人であるサ

ン・ジョルディ（聖ゲオルギウス）を称える日であり、恋人同士あるいは家族でバラを贈り合う日として知られる。いわば、カタルーニャ版バレンタインデーである。この起源は中世にまでさかのぼるものであり、この日はカタルーニャにとっては地域ナショナリズムを喚起する日となっている。現在では「サン・ジョルディの日」といえば「本とバラの日」を連想する文化の日として、2つの祭りの要素（本、バラ、サン・ジョルディ）は混ざり合い「接続」している[3]（図1参照）。



図1 2019年4月23日、バルセロナのランブラス通りにおける屋台。著者撮影。

このことから示されるように、バルセロナにおける4月23日は、カタルーニャナショナリズムの日であると同時に、カスティーリャナショナリズムに関わる日ともなっている。言い換えれば、冒頭に示したようなカスティーリャ対カタルーニャという対立的な構図がそぐわない「奇妙な」日といえる。

本研究は、サン・ジョルディの日がいつどのように「本とバラの日」として認知されるに至ったのか、すなわち2つの祭が「接続」したのかを明らかにすべく、それらが同日に開催されるようになったスペイン第二共和政期(1931-1936年)を対象にその「接続」の実態について考察するものである。2つの祭が「接続」に至った過程を分析することで、スペインナショナリズム研究が前提とする国家体地域というこれまでの対立的な見方から、ナショナリズムの共(依)存という別の図式へと至る道筋を見出していくのが、本研究の目的である。

2. 先行研究の整理とその課題

本の日とサン・ジョルディの日に関して、これまで出版史やサン・ジョルディ研究等で多数の研究蓄積があるものの、2つの祭がいつどのように「接続」していったのかという論点に関しては、ほとんど注目されてこなかった。

このなかで、本の日とサン・ジョルディの日の歴史をまとめたパソスは、カタルーニャ自治政府庁舎(Generalitat)前の広場でのバラの市と都市中心部にある様々な通りや広場での本の露店という、それぞれの祭を表現する存在の近接性という観点から「接続」を説明している[4]。つまり、第二共和政期に同日に祭を行うこととなり、バラの屋台と本の露店との地理的関係が近いものであったから、2つの祭は「接続」したのだという見解である。確かに本の日もサン・ジョルディの日もバルセロナの旧市街であるシウダ・ベリャのゴシック地区、ラバル地区が中心であり、同じ地区内で祭が行われている。しかし、2つの祭がどのような位置関係にあるのかは十分な検証がなされていないため、論拠としては不十分と言わざるを得ない。一方、出版史・読書史の研究上では、本日は出版・書店界による読書振興や販売促進イベントの一つとして論じられており、サン・ジョルディの日との関係は積極的に検討されていない[5]。したがって、2つの祭が同じ日に同じ都市で開催されていたものの、では、その都市のどこで実施され、2つの祭はどのような位置関係にあったのかについては、あいまいなままとなっている。

筆者はこれまで第二共和政期の新聞記事報道をテキストマイニングの手法を用いて分析する

ことで、当時の2つの祭は異なる祭としてとらえられ、「接続」していなかったと論じた[6]。本報告ではその成果を踏まえつつ別の視点から、すなわち、2つの祭の位置関係について空間史(Spatial History)の観点から可視化、分析を行うことで、先行研究で残されている課題にアプローチしていきたい。

3. 本の日とサン・ジョルディの日の概要

まずは、先行研究の成果を踏まえつつ、第二共和政期の本の日とサン・ジョルディの日について、前提となる知識をおさえておく。

1926年、プリモ・デ・リベラ独裁期に国王アルフォンソ13世の勅令によって、本日は制定された[7]。当初はセルバンテスの誕生日と目された10月7日であったが、1931年、共和政が宣言される直前に4月23日へと移されている。本日はバルセロナだけでなくスペイン全土で開催されたものではあったが、同国内の二大出版地であり[8]、また、本の日を提案し、その運営を担った図書商業組合(Cámara Oficial del Libro)がそれぞれ拠点を構えたマドリッドとバルセロナが中心となった。本日には、その勅令で定められた通り、販売促進のため10%の値引き販売が行われた。バルセロナにおいては、1926年開始は書店等の店舗内で行われたものの、1927年はバルセロナ市当局から、店舗前に無料で露店を設置すること、および店舗開店時間を延長する許可を得ており[9]、以降第二共和政期は同様の措置が取られた。したがって、本日の空間史的理解においては、祭に参加した店舗および店舗前露店の設置への理解が不可欠となる。その他、本日には、祭の案内のポスターの掲示や本に関する新聞記事コンクール、店舗および露店の装飾コンクール、本の購入者へのパンフレットの無料頒布等が行われた。

一方、サン・ジョルディの日に関しては、15世紀半ばにサン・ジョルディがカタルーニャの守護聖人とされると、16世紀後半に4月23日が聖人の日と定められ、その後18世紀初めまで続いた。しかし、スペイン継承戦争(1701-1714年)を期にカタルーニャの弾圧が始まると、サン・ジョルディの日は廃れることとなった。その後、19世紀半ばにロマン主義の影響を受け「ラナシェンサ(Renaixença)」という文芸復興運動が興ると、サン・ジョルディの日はカタルーニャの愛国主義的な文化の日として再興されるようになっていった。祭当日は、カタルーニャ自治政府庁舎内のサン・ジョルディ礼拝堂(Capella de Sant Jordi)で朝からミサが催され、市民に開放された。また、

サン・ジョルディの日を象徴するバラについては、1840年まではビスベ通り、サン・ジャウマ広場、カタルーニャ自治政府庁舎の中庭にバラを売る屋台があったことが指摘されている[10]。しかし、それ以降については先行研究では明らかにはされていない。また、「(恋人が)バラを贈る」という行為自体は、17、18世紀にはすでに行われていたものだが、1914年のバルセロナ市当局による熱心な普及活動によって広まったものとされている[11]。

まとめると、サン・ジョルディの日は中近世以来の長い伝統のあるものだが、19世紀後半、特に20世紀初頭に復活させられたものであり、一方の本の日はそのわずか数十年の後に作られた祭だということになる。

4. 史料データセットと祭典空間に関する情報のモデリング

前章で述べたように、第二共和政期の2つの祭典空間を把握するためには、書店等の位置とバラの屋台の位置を明らかにする必要がある。

まず、書店の位置を把握する史料として、1935年に図書商業組合が発行した、書店や出版社等、出版界に関連する企業等の情報をまとめた『図書・グラフィックアート年鑑』(Anuario del Libro y de las Artes Gráficas)を利用した[12]。ただ、この資料には本拠地がバルセロナにある書店の住所を確認することができるものの、バルセロナに支店を持つ(つまり、本店は別の地域にある)書店の住所は示されていない。そのため、これを補完するものとして、同年に発行された『カタルーニャ総合案内』(Guía General de Catalunya)を利用し[13]、欠けている書店の情報を補うこととした。これらの情報から、当時バルセロナ市内に書店が123店舗あったことが確認できた。

次に、バラの屋台の位置を示す史料、特にバルセロナ市やカタルーニャ州政府による史料に関しては、その存在も含めて確認できていない。そこで前段とともにこれを補うために、筆者がこれまでの研究で作成した、第二共和政期の新聞記事データセットを利用することとした。その対象新聞史料は、第二共和政期に関する新聞研究の成果[14]をもとに、いずれもカタルーニャに本拠地を置く、当時発行部数の多かった日刊紙8紙(Diario de Barcelona, El Diluvio, La Vanguardia, La Veu de Catalunya, Las Noticias, L'Humanitat, Noticiero Universal, Solidaridad Obrera)である。さらに第二共和政期の1931年～1936年の各年の4月23日前後の各紙から、本の日とサン・ジョルディの日に関する記事を抜き出し、データセット(記事総数は1,402件)と

した。さらに、ここから、本の日、サン・ジョルディの日の露店・屋台、書店、通り名・広場の情報を、キーワード検索(具体的には calle, ronda, plaza, Libreria, Edición 等)および目視で対象を選び出し、情報を析出することとした。

以上の作業で析出した位置およびその内容に関する情報は、1930年にバルセロナ市地形局(Ajuntament de Barcelona, Servicio Topográfico)が発行した5000分の1の地図[15]を用いて住所の確認を行いつつ、Google マイマップ上にマッピングを行い、その後、次項で述べるシステムにデータ移行を行った。

5. Omeka Classic を用いた祭典空間の可視化手法

本研究では、デジタルアーカイブシステムの Omeka Classic を利用して、新聞記事のほか当時の写真資料等を収録したデジタルアーカイブ”Archivo Digital de la Diada de Sant Jordi y del Día del Libro”を作成している[16]。本報告では、前章で抽出した祭典空間の情報の可視化のため、Omeka Classic のプラグインソフトウェアである Neatline を用いて、前章で述べた Google マイマップ上でのマッピングの結果を取り込み表示させている。なお、第二共和政期と比較すると現在では一部の通りがなくなっていたり、また、通りや広場の名称が変わっていたりするものもあるため、前章で言及した1930年の5000分の1の地図[17]をオーバーレイすることで、当時の位置を確認できるようにした。

6. 考察

前章で述べた可視化結果は次ページの図2の通りである。なお、図2は構築途中のものである。マッピング作業は未だ途上ではあるものの、本稿執筆時点でも、すでに本の日とサン・ジョルディの日に関して、書店等の位置とサン・ジョルディの日の記事で言及される場所がおおむね異なることが明らかになっている。

まず、サン・ジョルディの日に関しては、カタルーニャ自治政府庁舎(図3参照)を中心に、その前にある「共和国広場(Plaza de República)」(現サン・ジャウマ広場/図4参照)と庁舎北東側の「オビスポ通り(Calle de Obispo)」(現ビスベ通り)が言及されているのみであった[18]。

一方で書店の位置に関しては、バルセロナの目抜き通りであるランブラス通り(Las Ramblas)、そしてその北西地域(Ronda de Universidad, Calle Pelayo, Plaza de Catalunya)を中心に、シウタ・ベリャ(Ciutat Vella)とアシャンブラ(L'Eixample)地区に広がっていることが分かる。

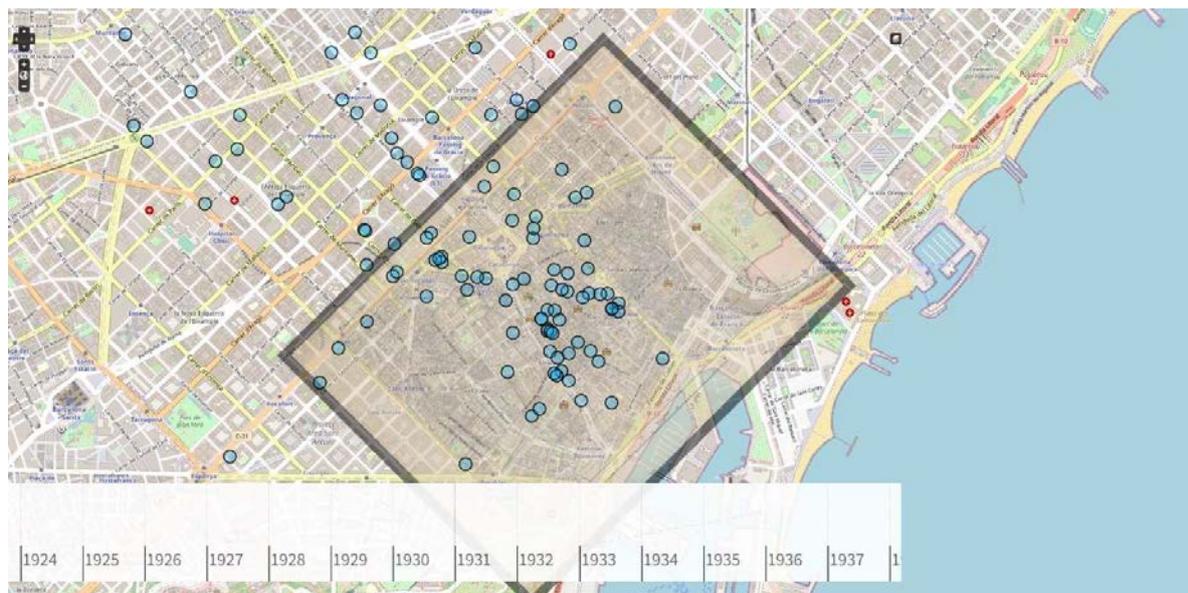


図 2 Historical Spatial Analysis Map



図 3 1932 年サン・ジョルディの日におけるカタルーニャ自治庁舎内のバラの露店[19]



図 4 1933 年サン・ジョルディの日における「共和国広場」での花売りの様子[20]

それでは、書店のうち、本の日に参加していた店舗はどこに、どの程度あったのだろうか。これを探るうえで役立つのが、図書商業組合が 1933 年以降発行した出店許可証とそのリストである。これは、本の日当日における不正販売の多さに業を煮やした図書商業組合が、バルセロナ市当局に働きかけ、1933 年からは同組合の許可証を持たない露店を排除させたものである[21]。書店等の出店希望者から図書商業組合へ送られた許可証の申請記録は 1935 年と 1936 年分がカタルーニャ国立公文書館に残されており、それによると 1935 年は 70 店、1936 年は 135 店であった[22]。先述の通りバルセロナ市内の書店が 123 店舗であったことを考えると、1935 年はその半数以上、1936 年は書店以外にも祭に参加していたことになる。第二共和政期後半においては、本の日の出店数の急増と拡大を指摘できるだろう。

また、1936 年の図書商業組合の出店許可証に関わる史料には、店舗または露店の住所情報がまとめられており、この史料から出店の多い通りや広場が分かる。それによると、他の通りや広場を大きく引き離して、ランブラス通り(図 5 参照)が 48 店(約 30%。なお、%は 1936 年出店数に占める割合である。以下同様。)と突出している。それに続いて、カタルーニャ広場(図 6 参照)(14 店/約 10%)と大学広場(Plaça Universitat, 11 店/約 8%)が比較的多い結果となった[23]。本日の参加店舗の場所が先述の書店の位置関係とも符合した結果となっていることに注意したい。



図 5 1935 年の本の日のランブラス通りの様子 [24]



図 6 第二共和政期のカタルーニャ広場に面したカタルーニャ書店の露店の様子 [25]



図 7 1936 年カタルーニャハイカーセンターによる「共和国広場」での露店の様子 [26]

以上から、書店等が位置し、また、新聞記事でも言及される本の日祭典空間はランブラス通りとその北西部にあり、一方のサン・ジョルディの日祭典空間は、カタルーニャ自治庁舎およびその周囲に限定されている様子をうかがうことができる。

ところが、1936 年の本の日の出店リストのうち、サン・ジョルディの日祭典空間に出店した事例が 1 店だけ認められた [27]。それが「共和国広場」に面した貯蓄銀行 (Caixa d'Estalvis) 前に出店したカタルーニャハイカーセンター (Centre Excursionista de Catalunya) の露店である (図 7 参照)。カタルーニャハイカーセンターが「共和国広場」を出店場所としたのは、図書商業組合の通達により、店舗前の通りが狭い場合はその最寄りの広い通りもしくは広場で出店することと定められていたためと考えられる [28]。

1936 年のカタルーニャハイカーセンターの露店の位置は例外的な存在と評価できるだろうが、2 つの祭典空間が重なり、2 つの祭が「接続」していく契機と捉えることもできるかもしれない。

7. 今後の課題

今後の課題としては、まずなによりもすべての情報のマッピングが終わっていないため、その作業を継続的に行う必要がある。また、ランブラス通りのなかでも中心部にあるランブラ・サン・ジョセップ (Rambla de Sant Josep) は別名「花のランブラ (Rambla de las flores)」と言われ、もともと花の売店が置かれていた通りである。しかし、ここまでの調査では、サン・ジョルディの日にこの通りの花の露店がどのような活動をしていたのかが明らかになっていない。そのため、サン・ジョルディの日におけるバラの露店の情報を別史料から調査する必要がある。また、1936 年はオビスポ通りにバラの露店の出店が禁止されており [29]、祭典空間の移動の兆しがうかがえることから、今後は現代まで時間軸を伸ばすことで、2 つの祭典空間の重なりの変化も見ていく必要がある。

しかし、そのためには、マッピング作業の効率化が課題である。今回は特徴的な単語を検索して情報を抽出し、目視で確認を行っているものの、時間軸を伸ばすことを考えるならば、大規模なデータを効率的にマッピングする機械的な手法が必要となる。あるいは、作業自体をクラウドソーシングとして行うことも考えられるだろう。そのクラウドソーシングに関して言えば、市民自身の参加意識や文字情報には表れない当時の状況を知る上でも、特に内戦以降の調査に関しては市民参加型の資料収集をデジタルパブリックヒストリーの実践として行うことも検討したい。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 19K20638 の助成を受けたものである。

参考文献

- [1] 例えば, 奥野良知. カタルーニャ・スペイン問題—問われているのはスペインの多様性, 民主主義, 人権. 奥野良知編. 地域から国民国家を問い直す; スコットランド, カタルーニャ, ウイグル, 琉球・沖縄などを事例として. 明石書店. 2019年, pp.113-150.
- [2] なお, この4月23日は, セルバンテスのほか, シェイクスピア, インカ・ガルシラーソらの死去日であることから, 1995年のユネスコのパリ会議において「世界本と著作権の日」(World Book and Copyright Day)に認定され, 現在では世界的な「本の日」として祝われるようになってきている. "World Book and Copyright Day". UNESCO.
<https://www.unesco.org/en/days/world-book-and-copyright>, (参照 2022-10-25).
- [3] Polo, Carme. Lobo, Ricard. *Sant Jordi; Llibres i rosas*. Viena Edicions, 2020, p.17.このほかサン・ジョルディの日を本とバラの日と捉える資料は多数あるが, 例えばカタルーニャ自治政府のウェブサイトにはサン・ジョルディの日のイメージに本とバラが描かれている. "Diada de Sant Jordi". Generalitat de Catalunya.
https://web.gencat.cat/web/.content/00_HOME/home_destacats/sant-jordi-2022-home.jpg_223078711.jpg, (参照 2022-10-13.)
- [4] Cendán Pazos, Fernando. *La Fiesta del Libro en España; Crónica y miscelánea*. Madrid, 1989, p.54.
- [5] Martínez Rus, Ana. *La Política del Libro durante la Segunda Republica: socialización de la lectura*. Gijón. 2003. Martínez Rus, Ana. *La política editorial durante la Segunda Republica: las Ferias del Libro*. Murga Castro, Idoia, y Lopez Sanchez, Jose Maria. Ed., *Política cultural de la Segunda Republica*. Madrid. 2016, pp.147-170
- [6] 菊池信彦. スペイン第二共和政期(1931-1936)における本の日とサン・ジョルディの日の「接続」の分析: 新聞記事テキストマイニングを手法として. じんもんこん 2019 論文集. 2019, pp.145-150.
- [7] Gaceta de Madrid. 1926-02-09, núm. 40, pp.707-708.
- [8] Martínez Rus, Ana. Op.cit., 2003. pp.222-223. Martínez Rus, Ana. Op.cit., 2016. p.148.
- [9] Cendán Pazos, Fernando. Op.cit. p.33.
- [10] Polo, Carme. Lobo, Ricard. Op.Cit. pp.63-64.
- [11] Ibid. p.66.
- [12] Cámara Oficial del Libro. *Anuario del Libro y de las Artes Gráficas*. 1935, Barcelona.
- [13] Guía General de Catalunya. 1935, pp.1088-1089.
- [14] Checa Godoy, Antonio. *Prensa y Partidos Políticos durante la II República*. Sevilla, 2011. pp.44-45.
- [15] "Barcelona, Escala 1:5.000 / Servicio Topografico del Ayuntamiento". Cartoteca Digital.

<https://cartotecadigital.icgc.cat/digital/collection/catalunya/id/1655>, (参照 2022-10-13.)

[16] Nobuhiko Kikuchi. *Archivo Digital de la Diada de Sant Jordi y del Día del Libro*.

<https://projectsantjordi.net/da/>, (参照 2022-10-13.)

[17] "Barcelona, Escala 1:5.000 / Servicio Topografico del Ayuntamiento". Cartoteca Digital.

<https://cartotecadigital.icgc.cat/digital/collection/catalunya/id/1655>, (参照 2022-10-13.)

[18] 特に1933年の記事によると, 当局によって本文中で述べた三か所に花屋の出店は限定されていたことが示されている. "La Fiesta de San Jorge", *Noticiero Universal*, 1933-04-24.

[19] Brangulí. "Venda de flors en la celebració de la Diada de Sant Jordi.". 1932-04-23.

<https://arxiusenlinia.cultura.gencat.cat/#/cercaavancada/detallunitat/ANC1-42-N-16440>, (参照 2022-10-27.)

[20] Brangulí. "Venda de flors en la celebració de la Diada de Sant Jordi a les portes del Palau de la Generalitat.". 1933-04-23.

<https://arxiusenlinia.cultura.gencat.cat/#/cercabasica/detallunitat/ANC1-42-N-16442>, (参照 2022-10-27.)

[21] Cendán Pazos, Fernando. Op.cit. p.61. *Memòria de 1933*. ANC 1-262-T-54.

[22] ANC 1-262-T-54, ANC 1-262-T-354.

[23] Dossier sobre el Día del Llibre de 1936: parades i punts de venda de llibres al carrer. ANC 1-262-T-354.

[24] Pérez de Rozas, Carlos. *Diada de Sant Jordi*, 1935-04-23.

<https://catalegarxiuunicipal.bcn.cat/ms-opac/permalink/1@674615>, (参照 2022-10-27.)

[25] Casas i Galobardes, Gabriel. *Diada del Llibre*. 1931-1938

<https://arxiusenlinia.cultura.gencat.cat/#/cercabasica/detallunitat/ANC1-5-N-6530>, (参照 2022-10-27.)

[26] Blasi i Vallespinosa, Francesc. *Parada de llibres del Centre Excursionista de Catalunya i gent mirant per Sant Jordi*. 1936-04-23.

<https://mdc.csuc.cat/digital/collection/afceccf/id/19400/rec/160>, (参照 2022-10-27.)

[27] Dossier sobre el Día del Llibre de 1936: parades i punts de venda de llibres al carrer. ANC 1-262-T-354.

[28] "Instruccions Per la Festa del Llibre". Dossier sobre el Día del Llibre de 1936: parades i punts de venda de llibres al carrer. ANC 1-262-T-354.なお, カタルーニャハイカーセンターの住所は, カタルーニャ自治政府庁舎およびオビスポ通りから一筋北東に入ったパラディス通り (Paradís) 10番地にあった. *Cámara Oficial del Libro. Anuario del Libro y de las Artes Gráficas*. 1935, Barcelona. p.442.

[29] "Centros Oficiales", *Noticiero Universal*, 1936-04-22.